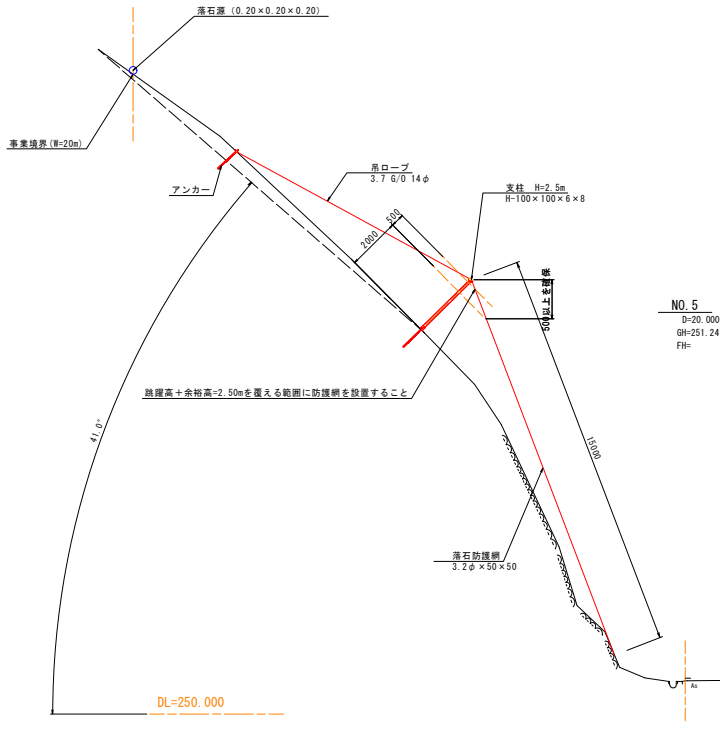




標準断面図 S=1/100

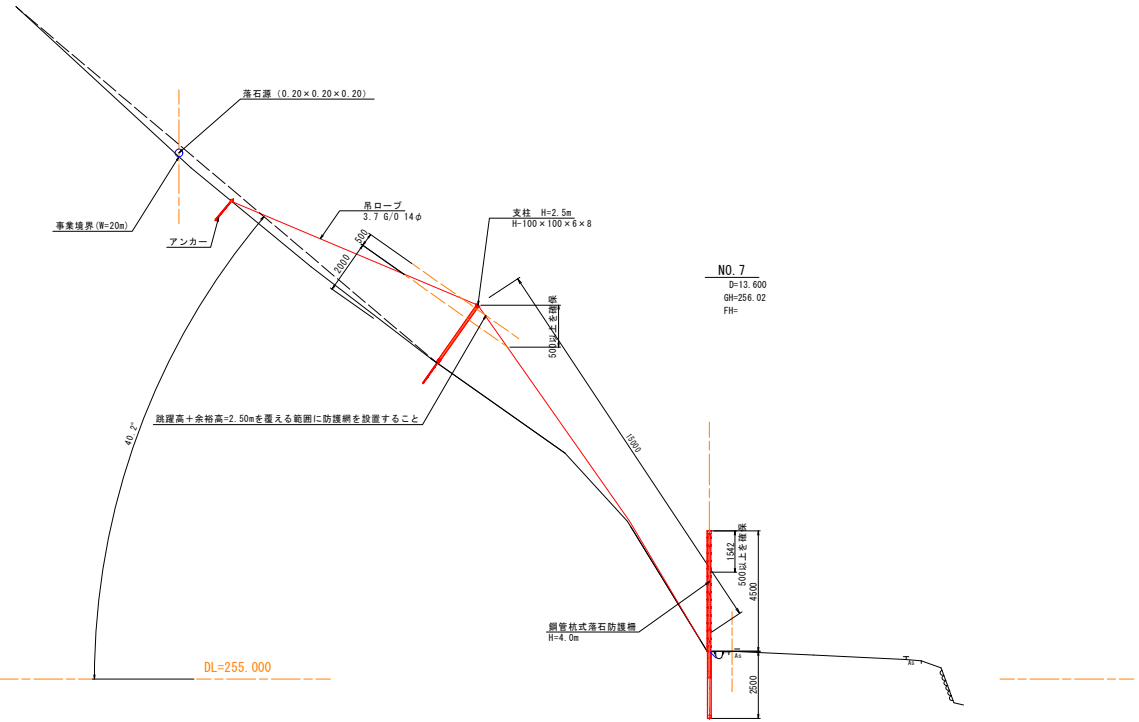
※架空線は、施工前に移設を行い、施工後復旧すること。  
 ※防護柵の支柱の位置は、施工前に現地で確認し、施工上問題がないことを確認する。  
 支障がある場合は、若干移動してもよい（監督員と協議すること）。  
 ※防護柵の支柱の埋入れ長は、構造図に記載されている条件で設計している。  
 事前に確認を行い、これより異なる場合は、確認結果に基づく再計算を実施すること。  
 ※防護柵の支柱設置のための掘削は、最小限にすること。  
 また、掘削斜面を放置すると危険と判断される場合は、別途対策を行うこと。  
 ※雨天時の施工は避けること。崩壊斜面部は雨天時にシートを敷設するのが望ましい。  
 ※施工時の通行幅として、3m以上を確保すること。  
 ただし、一時的な通行止めは可能とし、事前に地元に周知を行うこと。  
 ※クレーン等で作業する場合は、舗装面を鉄板で養生すること。

落石防護網工



NO. 5  
 D=20.000  
 GH=251.24  
 FH=

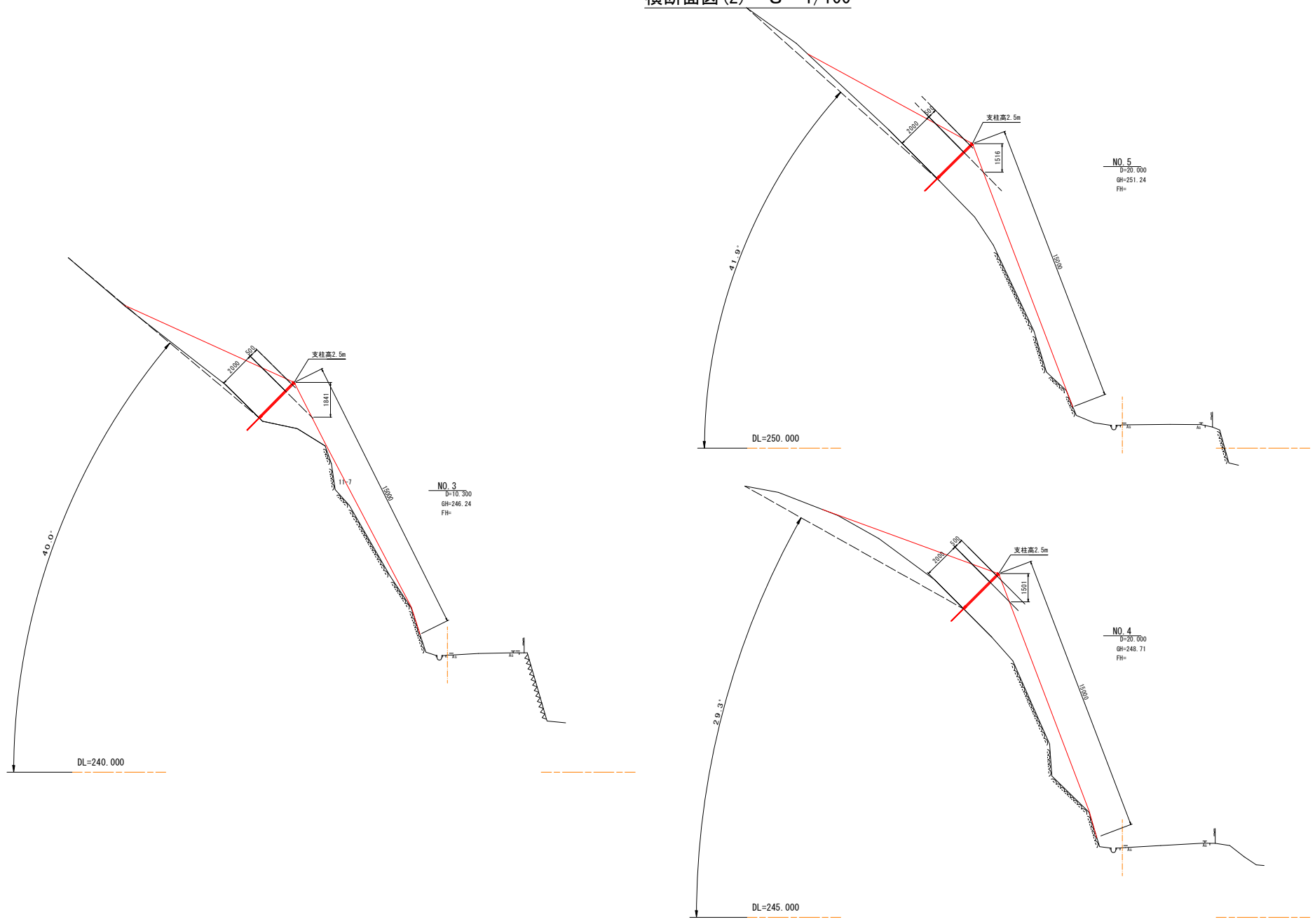
落石防護柵工



NO. 7  
 D=13.600  
 GH=256.02  
 FH=

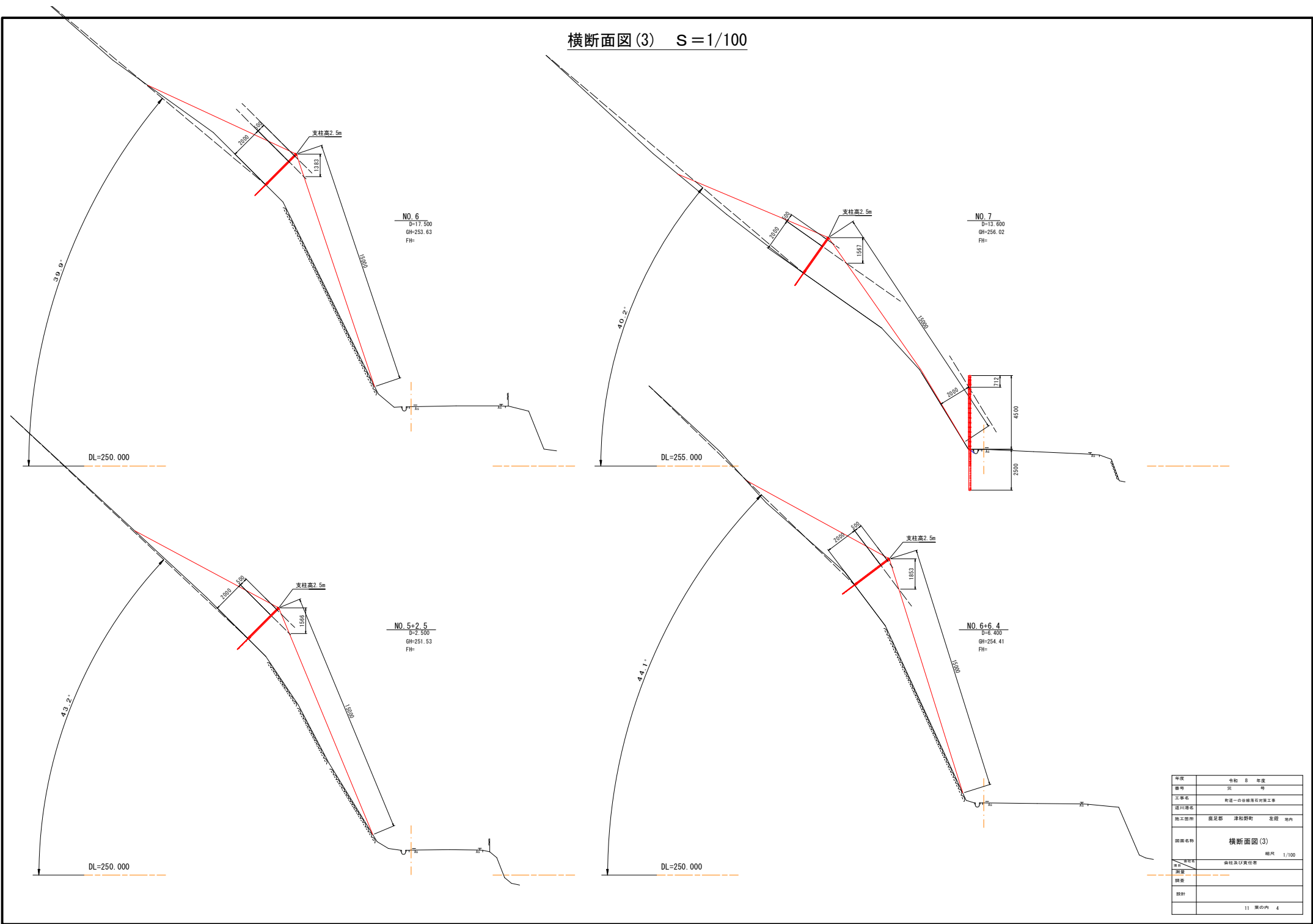
年度	令和 0 年度
審時	実 時
工事名	町道一の谷線道路対策工事
運川番号	
施工箇所	鹿児島県 津和野町 左段 地内
計画名称	標準断面図
縮尺	縮尺 1/100
設計	会社及び責任者
調査	
監査	
設計	
11 図の内	2

横断面図(2) S=1/100



年度	令和 0 年度
種別	実 地
工事名	町道一本杉線道路改良工事
運用種別	
施工箇所	青森県 津和野町 左段 地内
断面名称	横断面図(2)
縮尺	縮尺 1/100
設計者	会社及び責任者
測量	
調査	
設計	
	11 面の内 3

横断面図(3) S=1/100



年度	令和 0 年度
書種	図 様
工事名	町道一本杉線道路改良工事
運用地名	
施工箇所	青森県 津和野町 左段 地内
図面名称	横断面図(3)
縮尺	縮尺 1/100
設計者	会社及び責任者
測量	
検査	
設計	
11 面の内 4	

ポケット式落石防護網工 展開図 S=1/250

A=1305.0m<sup>2</sup>

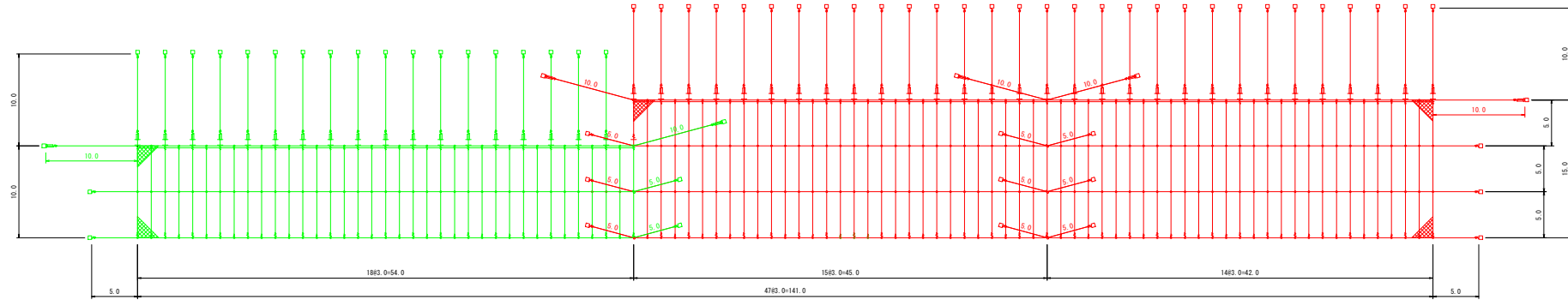
- ※ 指示なき支柱はすべて h=2.5m
- ※ 支柱・アンカー数量は、岩部用・土砂部用 = 9:1 で算出。  
(但し、図中表記はすべて岩部用)
- ※ 本図面は概略設計である。設置範囲・アンカー種類・支柱高さ等は、  
現地詳細測量後に決定すること。
- ※ 横ロープ・吊ロープに使用する巻付グリップは、  
端部をワイヤグリップにて十分に緊締すること。

材料明細表

ポケット式落石防護網工				
名称	仕様・寸法 (mm)	数量	単位	記号
有効架設面積		1305.0	m <sup>2</sup>	
金網	3.2φ×50×50×3.2mm	1440	m	2-054
吊ロープ	3×7 6/0 14φ	300.0	m	
縦ロープ	3×7 6/0 14φ	450.0	m	
縦補強ロープ	3×7 6/0 12φ	420.0	m	
横ロープ	3×7 6/0 14φ	448.0	m	
クロスグリップ	(6) 3.2φ×60×60	200	個	+
巻付グリップ (E型)	14φ用-1100	119	本	→
巻付グリップ (E型)	12φ用-800	58	本	→
巻付グリップ (R型)	12φ用-1200	13	本	→
ワイヤグリップ	F-18	120	個	++
結合コイル	3.2φ×50×200	1735	個	—
パイプ式ターンバックル (RE)	22φ×315	34	本	→
ターンバックル取付金具	(小) 岩部用	2	個	◇
ターンバックル取付金具	(大) 土砂部用	2	個	◇
岩部用セメントアンカー	Ø22 (M27) ×1000	28	本	□
岩部用阻止アンカー	Ø22 (M27) ×1000	0	本	□
土砂部用アンカー	114.3φ×4.5-1630 29L-φ×300×600	12	本	○
土砂部用アンカー	114.3φ×4.5-1630 29L-φ×300×600	6	本	○
岩部用ポケット支柱	H=100×100×6×8-2600	18	本	⊕
土砂部用ポケット支柱	H=100×100×6×8-2600	13	本	⊕

設計積算基準

- (1) 金網上端折り曲げ  
0.2m
- (2) 結合コイル使用数量  
縦ロープ 5mに2ヶ  
縦補強ロープ 5mに2ヶ  
横ロープ 3mに4ヶ  
最上段横ロープ 3mに2ヶ



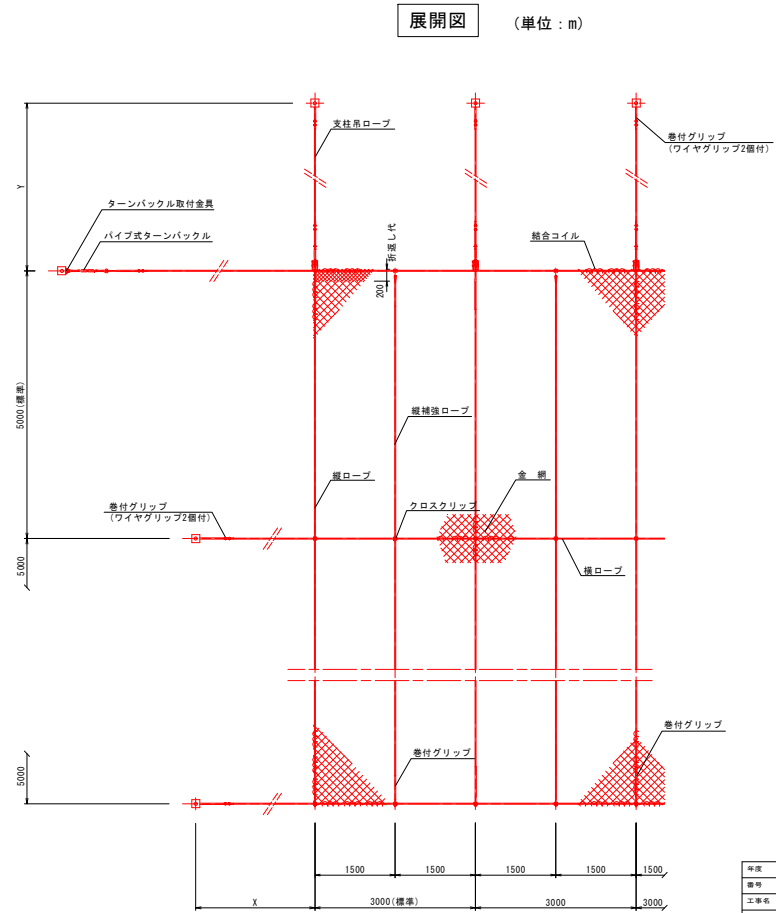
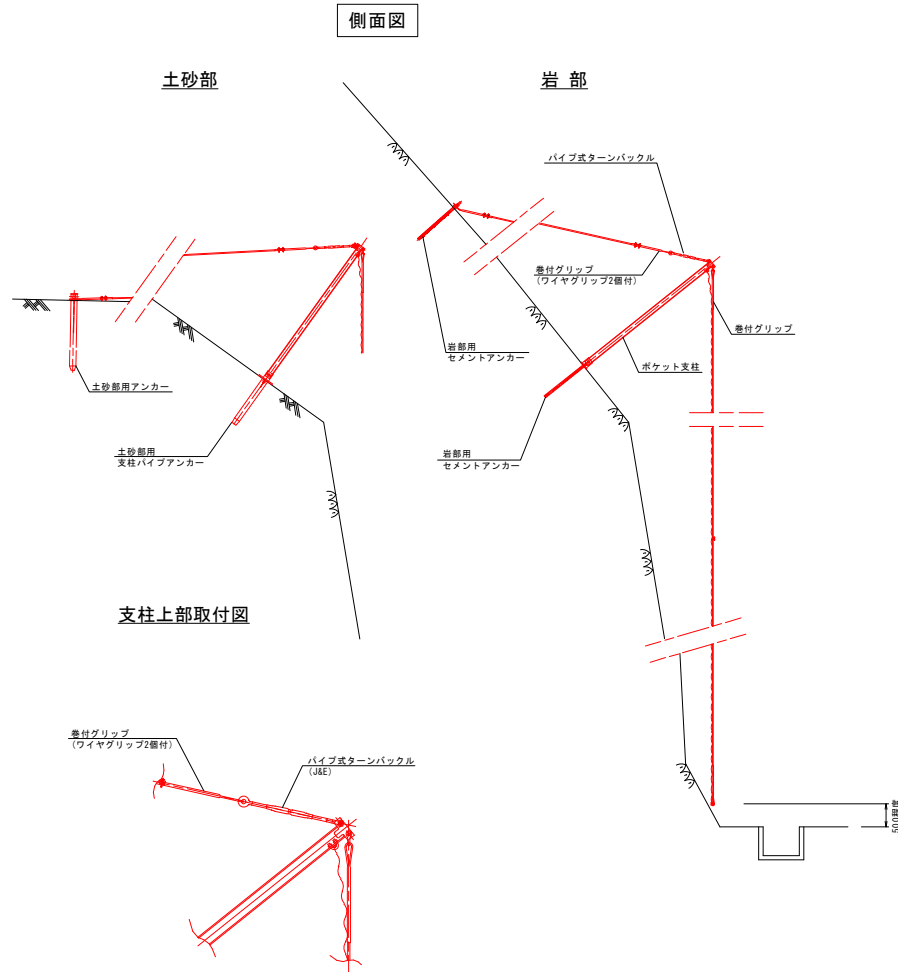
— 当初  
— 既設

年度	令和 8 年度
番号	第 号
工事名	町道一の谷線道路対策工事
運川番号	町道一の谷線
施工箇所	富田郡 津和野町 左程 池内
図面名称	ポケット式落石防護網工 展開図
縮尺	縮尺 1/250
設計者	会社及び責任者
設計	
11面の内の5	

# ポケット式落石防護網工 一般図

	金網	支柱吊ロープ	縦ロープ	横ロープ	縦補強ロープ	岩部用アンカー	結合コイル	クロスクリップ	パイプ式ターンバックル
TPH-3.2	3.2φ×50×50	3×7 14φ	3×7 14φ	3×7 14φ	3×7 12φ	D29(M27)×1000	3.2φ×50×300	(小) 3.2t×60×60	22φ×325

※使用する材料は、全て亜鉛メッキを施していること。



金網の使用数量	
金網幅	:3300
最上段横ロープ折返し代	:200

※設置する地山の状況をもて選択すること。  
 ※不安定な岩塊に支柱やアンカーを設置しないこと。

年度	令和 8 年度
番号	第 号
工事名	第一の岩盤安定対策工事
運川番号	第一の岩盤
施工箇所	鹿児島県 津和野町 左段 池内
図面名称	ポケット式落石防護網工 一般図
縮尺	—
設計	会社及び責任者
校核	
図面番号	11面の9/9

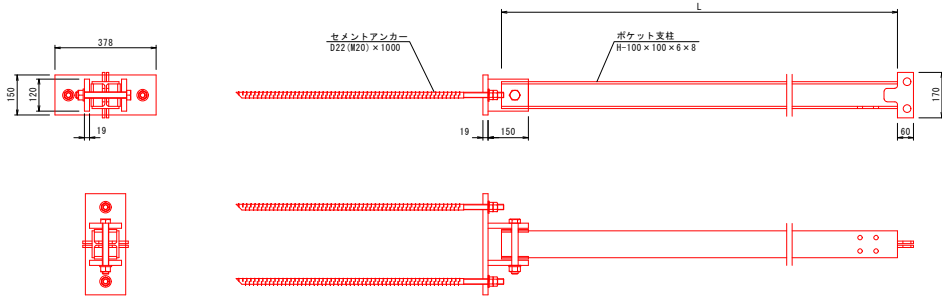
# ポケット式落石防護網工 部材図

ポケット支柱  
H=100×100×6×8-L

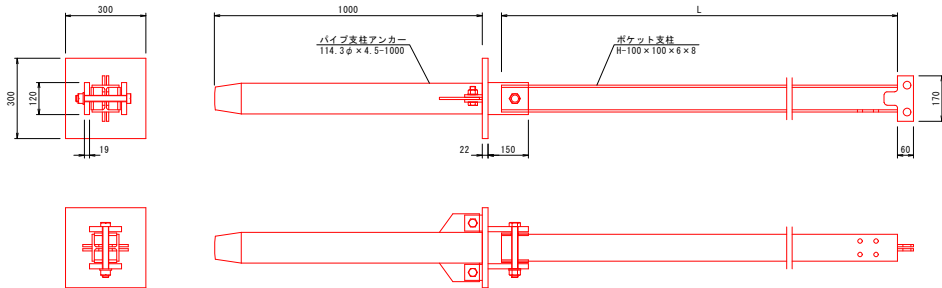
L	2450
	2950
	3450
	3950

支柱  
S=1/10

岩部用



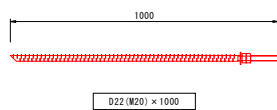
土砂部用



岩部用

支柱用セメントアンカー

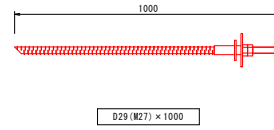
S=1/10



岩部用

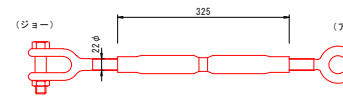
セメントアンカー

S=1/10



パイプ式ターンバックル(J&E) 22φ

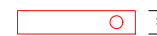
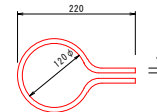
S=1/5



ターンバックル取付金具

(大) 土砂部用

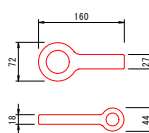
S=1/5



ターンバックル取付金具

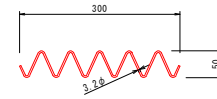
(小) 岩部用

S=1/5



結合コイル 3.2φ

S=1/5

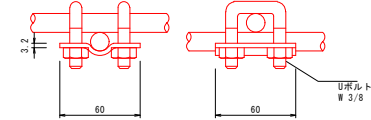


最上段横ロープ	: 3mに8個
横ロープ	: 3mに4個
縦ロープ	: 5mに8個
縦横強ロープ	: 5mに5個

クロスクリップ

S=1/2

(小) 3.2t×60×60



巻付グリッ

※横ロープ・吊ロープを使用する場合は、巻付部端部をワイヤグリッにて十分に緊締すること。



※図面は巻付長を途中までとしているが、必要巻付長はAすべてとする。

寸法表

区分	寸法	呼称寸法	A
巻付グリッ(既型)	14φ用	1100	1100
	12φ用	800	800
巻付グリッ(新型)	14φ用	1280	1280

ワイヤグリッ

F-18

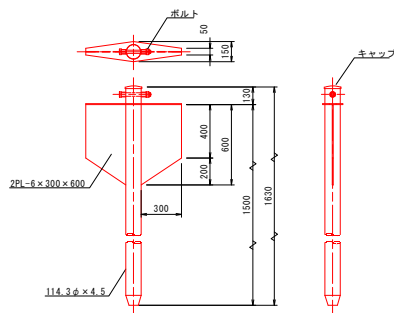
S=1/5



年度	令和 3 年度
番号	第 号
工事名	町道一の谷線高圧対策工事
運川番号	第一の谷線
施工箇所	鹿足部 深和野町 左岸 池内
図面名称	ポケット式落石防護網工 部材図
縮尺	縮尺 図示
設計	会社及び責任者
検査	
数量	
材料	
設計	

ポケット式落石防護網工 土砂部用アンカー図 S=1/20

114.3φ×4.5-1550



年度	令和 5 年度
箇所	区 号
工事名	町道一本杉線道路改良工事
区画番号	町道一本杉線
施工箇所	富足郡 深和野町 左程 池内
図面名称	ポケット式落石防護網工 土砂部用アンカー図
縮尺	縮尺 1/20
設計者	会社及び責任者
測量	
監査	
設計	
	11面の内8

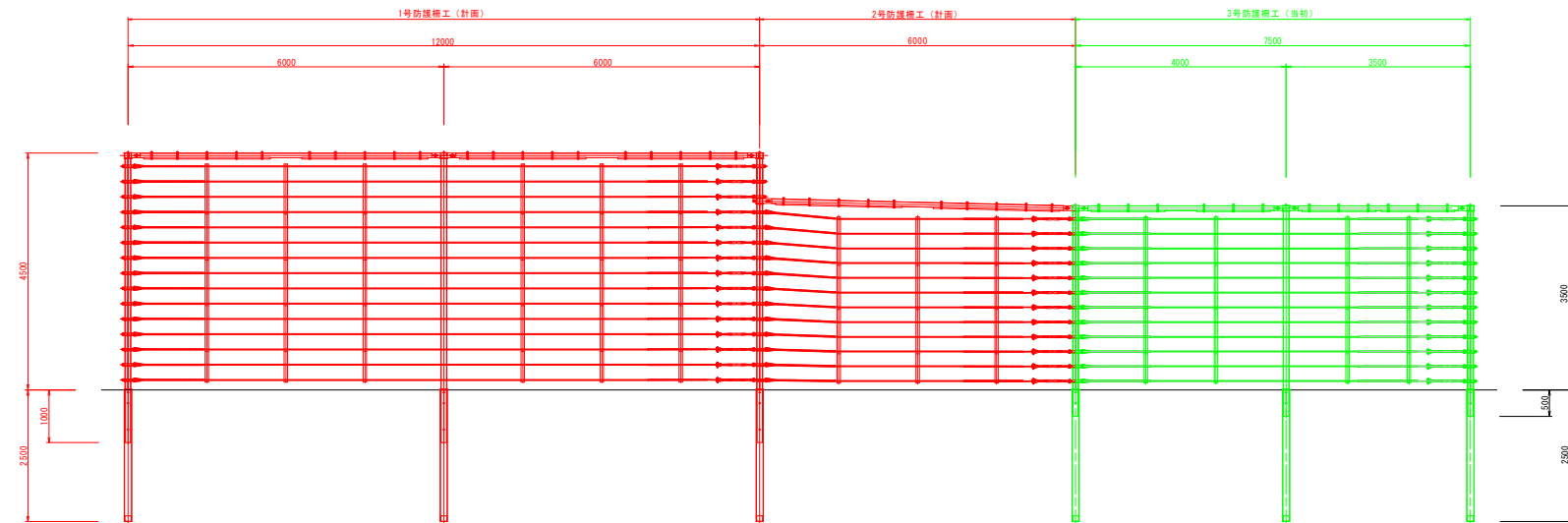
# 鋼管杭式落石防護柵工 正面図 S=1/50

1号防護柵工 SS-45-50 柵高=4.5m 杭長=2.5m	
ケーブル構成	: 12.0m
端末支柱構成	: 1組
中間端末支柱構成	: 1組
中間支柱構成	: 1組
サポート構成	: 2組
間隔保持材構成	: 6組
鋼管杭(外管)	: 3本

2号防護柵工 開口部	
ケーブル構成	: 6.0m
サポート構成	: 1組
間隔保持材構成	: 3組

3号防護柵工 SS-35-50 柵高=3.5m 杭長=2.5m	
ケーブル構成	: 7.5m
端末支柱構成	: 1組
中間端末支柱構成	: 1組
中間支柱構成	: 1組
サポート構成	: 2組
間隔保持材構成	: 4組
鋼管杭(外管)	: 3本

[道路側視]

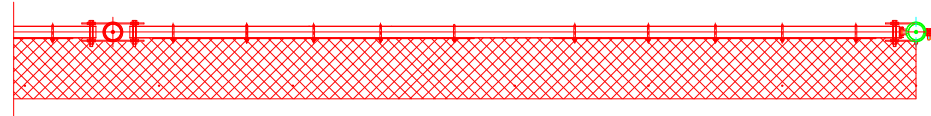


年度	令和 8 年度
番号	第 号
工事名	町道一の谷線町道工事
運川番号	町道一の谷線
施工箇所	富士郡 津和野町 左程 池内
図面名称	鋼管杭式落石防護柵工 正面図
縮尺	縮尺 1/50
設計者	会社及び責任者
承認	
監査	
設計	
11	第の内 9

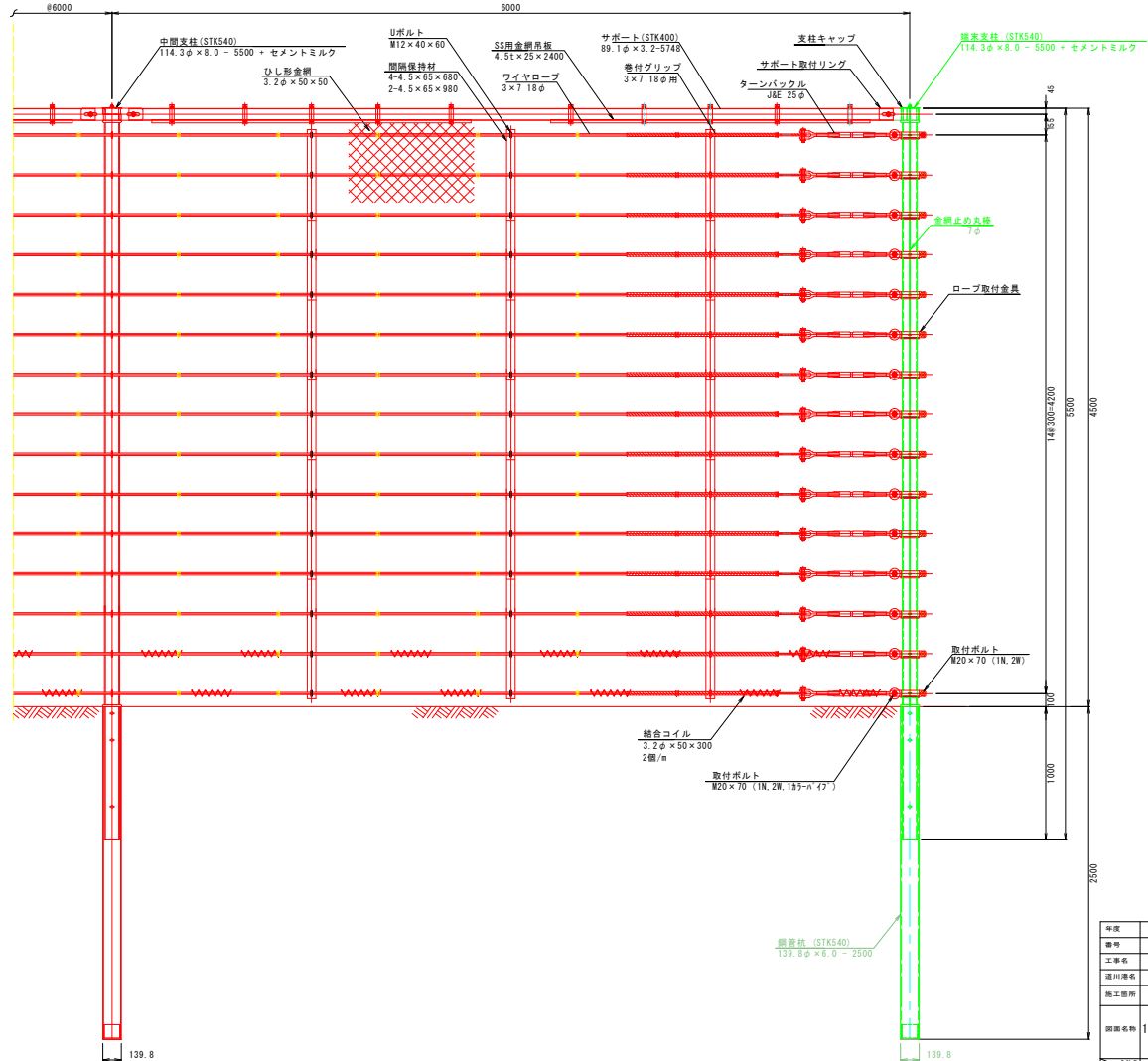
※支柱の位置は、施工前に現地で確認し、施工上問題がないことを確認する。  
 支障がある場合は、若干移動してもよい(監督員と協議すること)。  
 ※支柱の埋入深さは、N値50以上の確実土を想定して設定している。  
 事前に確認を行い、これより異なる場合は、確認結果に基づき再計算を実施すること。

# 1号鋼管杭式落石防護柵 構造図 S=1/20

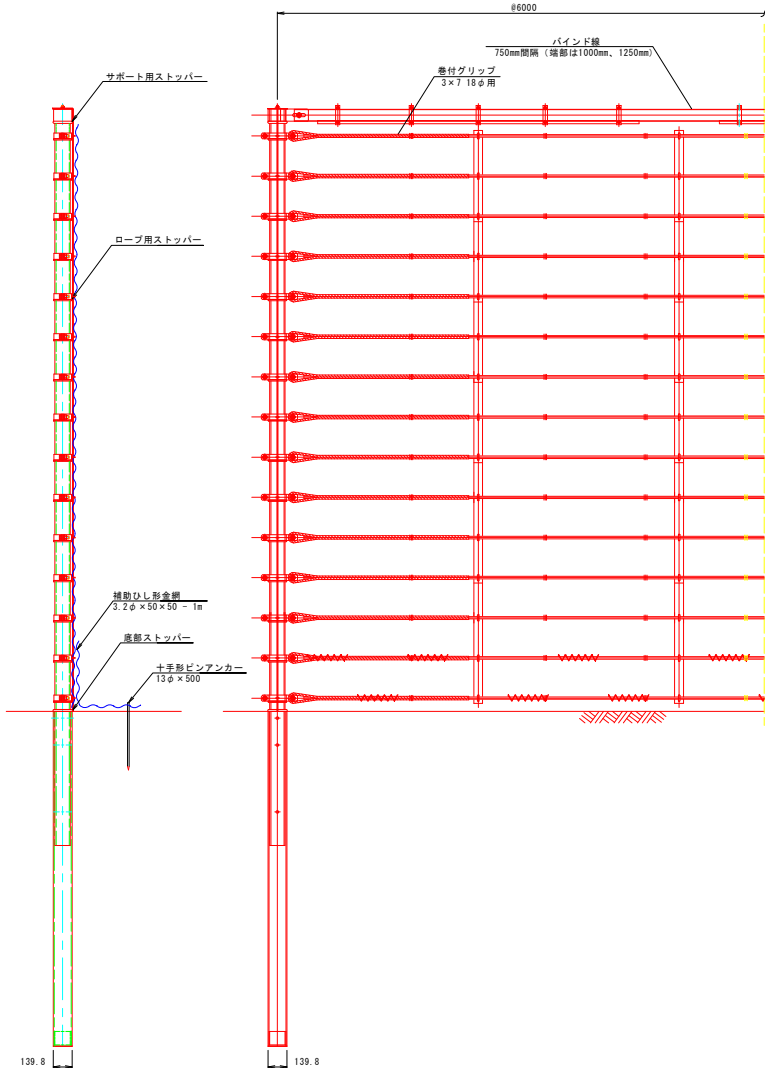
(道路側)  
平面図



正面図



側面図



年度	令和 5 年度
箇所	茨  野
工事名	第一の谷線落石対策工事
運川番号	
施工箇所	鹿沼郡 深和野町 左程 池内
図面名称	1号鋼管杭式落石防護柵 構造図
縮尺	縮尺 1/20
設計	会社及び責任者
校核	
承認	
設計	

